

ミカドアゲハを兵庫県加古川市内で採集

岡田善嗣・近藤伸一

筆者の岡田は、毎夏休みに子供たちの自然に親しむきっかけづくりを目的として、加古川市のギャラリーで「虫展」を開催している。2017年に友人が展示していた「モルフォチョウ」を観た子供が父親に採りに行きたい！とオネダリをしているのを見て、2018年は身近な「加古川の蝶」を企画し、4月から綱を持った。中学時代から60数年振りである。5月5日、晴天の11時頃、加古川市平荘町内の墓地の、ツツジで2列に分割された約20×100mの空地で、目の前の地肌我突然止まった蝶を採取した。帰宅してから図鑑を見て「ミカドアゲハ」と知った。採集地は加古川市平荘町の平荘湖周遊道路の南側に位置し、岡田と近藤は周辺の山林や付近の神社を調査したが、成虫も食草であるオガタモノキやタイサンボクも確認することはできなかった。その後、岡田は採集地を中心とした5km圏内の加古川市内と高砂市内で食餌植物の可能性が高い樹木の分布調査を行い、公園や神社、個人の庭などの数か所でオガタモノキの大木や、トウオガタマ、タイサンボクを確認したが幼虫を見つけることはできなかった。ミカドアゲハは兵庫県内では、淡路市津名町(1958,1964)、たつの市新宮町(2008)、赤穂市上谷谷(2014)のわずか4例しかなく、加古川市では初めての記録である。採集した標本は佐用町昆虫館で展示中である。

【採集データ】

加古川市平荘町 1♂ 5-V-2018 岡田善嗣



図1 加古川市で採集されたミカドアゲハ♂。後翅裏面の斑紋は黄斑型。

○参考文献

広畑政巳, 2016. 兵庫県におけるミカドアゲハの記録.

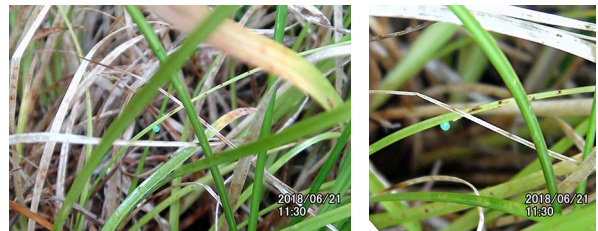
(Yoshitsugu OKADA 兵庫県加古川市)
(Shinichi KONDO 兵庫県朝来市)

ウラナミジャノメの自然卵を発見

島崎正美・島崎能子

ウラナミジャノメ (*Ypthima multistriata* 絶滅危惧II類: 以下本種) の産卵に関しては、2009年6月に東播磨で観察された産卵行動の報告(久保, 2010)が筆者らの知る限り日本で唯一の記録で、2018年6月、2番目の記録と思われるショウジョウスゲの葉裏に産みつけられた自然産卵1個を発見できたので報告する。

今回の発見卵は、日陰となった部分に自生するショウジョウスゲの大きな株の中央部から出た、先端部に向けて黄色く変色が見られる細い生葉の裏側で、♀が潜り込むことで初めて届くと考えられる地上約5cmの位置に産みつけられていて(図1, 2)、久保氏の報告にあるスゲ類に潜り込んで産卵したとの観察記録(枯葉と生葉: 地上約10cm)に近い状況といえる。発見場所は本種とヒメヒカゲがほぼ同じ時期に発生する、久保氏の観察地と同じ東播磨の低い山地の裾部で、当日、筆者はヒメヒカゲの産卵調査をしていて、偶然、ショウジョウスゲに産みつけられた本種の卵を見つけることができた。白色のヒメヒカゲの卵と違って本種の卵は青緑色をしているため容易に判別できる。



今回自然卵をみつけた生息地では、本種の幼虫がショウジョウスゲ(島崎, 2011)とケネザサ(島崎, 2015)を食草としていることが分かっており、ショウジョウスゲへの産卵はごく自然なことだが、2008年からヒメヒカゲと本種の生態観察を継続している過程で、産卵行動からの観察ではなく本種の自然卵を発見したのは今回が初めての例となる。

○参考文献

久保弘幸, 2010. ウラナミジャノメの産卵行動の観察. きべりはむし, 32(2): 9-11.

島崎正美, 2011. 加古川市におけるウラナミジャノメ *Ypthima multistriata* の食草と第2化発生について. やどりが (229): 32-39.

島崎正美, 2011. ケネザサを摂食するヒメヒカゲとウラナミジャノメの幼虫を観察. 月刊むし (536): 53-54.

(Masami SHIMAZAKI 兵庫県高砂市)
(Yoshiko SHIMAZAKI 兵庫県高砂市)